



できごと

平成30年11月19日(月)、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップを会場に「第26回静岡県図書館大会」が開催されました。午前中には「地方自治に対する、図書館を核とした政策提言」というテーマでの対談が行われ、午後は6つの分科会が開催されました。そのうち、第5分科会は、「情報センターとしての学校図書館～情報検索の「道しるべ」パスファインダーの基礎を学ぼう～」というテーマのもと、荒川区学校図書館支援室学校図書館スーパーバイザーの神澤登美子氏による講演とワークショップが行われました。(2ページ目にて概要を紹介いたします。)(宮崎)

子どもの本に関する賞

今号では、この1年の間に発表された子どもの本に関する賞の受賞作をご紹介します。紙面の都合上、大賞作品のみのご紹介となりますが、主催団体の公式発表では、次点となった作品や、別の部門の受賞作品が掲載されている賞もあります。大賞以外の賞を知ること、また新たな発見があるのではないのでしょうか。3ページ目にて受賞作をご紹介します。

◇子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中!

- ◆カエルの絵本
- ◆「ニッサン童話と絵本のグランプリ」と子どもの本に関する賞
- ◆新着図書も展示中です

◇お知らせ◇

◆「子ども図書研究室講師派遣事業」へのお申込・ご参加ありがとうございました◆

今年度より、県内市町立図書館や読書関連団体の方々を対象に、新刊の案内や児童書に関する研修を行う、「子ども図書研究室講師派遣事業」を開始し、下記のとおり8団体に研修を実施しました。どの会場でも研修後には多くの質問をお受けするなど、熱心に参加していただきました。また、当館にとっても直接情報交換ができる貴重な機会となりました。来年度も下記のテーマを中心に実施する予定です。御応募お待ちしております。

●平成30年度実施状況●

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1) 読み聞かせ入門 | 3団体 |
| (2) 子ども図書研究室案内と活用方法案内 | 1団体 |
| (3) 小学校低学年から中学年への読書案内 | 2団体 |
| (4) 小学校高学年から中学生への読書案内 | 1団体 |
| (5) ブックトーク入門 | 1団体 |

●2019年の予定●

4月中旬：実施要項告知
5月28日～6月13日：応募受付
※先着順ではなく、前年度の実施等を考慮し選定します。
実施期間7月～2月(11月を除く)

◇イベント情報◇

◆国立国会図書館国際子ども図書館 展示会「詩と伝説の国 イランの子どもの本」◆

- 日程 前期：3月 5日(火)～5月19日(日)
後期：5月21日(火)～7月21日(日)
- 会場 国際子ども図書館 レンガ棟3階 本のミュージアム
- 時間 9時30分～17時
- 休館日 月曜、国民の祝日・休日(5月5日のこどもの日は除く)、毎月第3水曜日
- 問合せ 国立国会図書館国際子ども図書館 Tel.03-3827-2053

静岡県図書館大会 第5分科会 学校図書館 報告

講師の神澤氏は、荒川区の小学校 24 校（児童数 8,806 人）と中学校 10 校（3,166 人）の学校図書館支援を担当し、今年で 6 年目となった。支援室の職員は、元校長との 2 名で、教員や学校司書を対象に、研修や情報交換会を実施している。2012 年度から児童生徒のためのパスファインダーを作成しているが、2017 年度以降は電子黒板やタブレット（中学生には 1 人 1 台配布あり）でも利用できるよう、各学校へメールによるデータ配信も始めた。

パスファインダーを、ひとりひとりの子どもの課題解決のために作成することで、その子に今、何が必要かを考えることができる。多人数で同時に学校図書館に来る子どもたちの要求に応えるには、ブックリストだけの提供では不十分である。最初の一步でつまずかないよう、学年、内容など、それぞれの子どもに合わせて寄り添い、まだ習っていない漢字にルビを付け、分類や排架、どう情報を選ぶかなどを繰り返し説明する必要がある。これらの作業のため、荒川区では、週に 2 時間、担当者との打合せを行っている。

作成には、まず教科書の入手が必要である。さらに教員向けの指導書にはおすすめの本が記載されることがあるので参考にしたり、指導要領が掲載された文科省の Web ページも参考にしたりしている。また、教員との話し合いを反映させることもある。授業で学校図書館を使えるよう、また、教員の授業づくりにも利用できるよう、教員と協働で作成している。

テーマやキーワードには、教科書に取り上げられているテーマや、調べるために手がかりとなる言葉を選ぶ。何をキーワードにするかが大切であるが、荒川区では、まず支援室からのフォーマットを元に学校司書が「基本型」を作成し、A4 サイズ裏表 1 枚に本当に大切なことだけを記載する。多くの図書館が、このフォーマットを共有している。

キーワードに合った本を学校図書館に用意できなければ、子どもたちはがっかりしてしまうため、資料を揃えることも大切である。

「基本型」を発展させた「応用型」は、さらに工夫し、調べ方の手順も載せる。自校の所蔵状況に合わせたり、参考図書や一般図書、インターネットで調べられるウェブページ（URL 記載）や、見学できる関係施設を紹介する。

パスファインダーは、子どもたちが興味を持ったことを検証し、さらに発展させながら活用してほしい。



ワークショップでは、「パスファインダー作成ワークシート」を参考に、6 人ずつのグループで、模造紙と付箋を使って作成作業を行った。まず対象学年を決め、「1：表題（テーマ）」「2：学習のめあて」「3：キーワード」を設定し、「4：図書資料」「5：Web」を話し合いながら記入していった。

表題は同じ「お米」でも、学習のめあては「お米をおいしく食べる」や「お米：まるごと知るとく」などと、グループによって違うことなども報告された。参加者があらかじめ持ち寄った図書を紹介しあい、公共機関の子ども向けウェブページ、子ども向け雑誌の特集記事等にも触れた。

講師からは、調べるための本のほか、場合によっては読み物の紹介もおもしろい、と講評があった。また、お米に関連して「トラクター」などの紹介もあり、食べ方や作り方にとらわれがちな視野の広がりを求められた。

所蔵資料から

知識



『お米の大研究』

楽しい調べ学習シリーズ

丸山 清明／監修

PHP 研究所 2015 年

グループの発表で紹介された図書。講師からも内容が紹介され、好評の一冊でした。（宮崎）

子どもの本に関する賞

御 紹介する賞のうち、ニューベリー賞は1922年から、カーネギー賞は1936年からと長く続く賞もあります。これらの賞の過去の受賞作を見ると、現在もなお子どもに愛され、読み継がれている作品も多く見られます。

過去の受賞作は、主催団体のウェブサイトの他、『児童の賞の事典』（日外アソシエーツ刊 2009年）や『海外文学賞事典』（日外アソシエーツ刊 2016年）などで確認することができます。

所蔵資料から

絵本



『うみべのまちで』

ジョアン・シュウォーツ／文

シドニー・スミス／絵

いわじょう よしひと／訳

BL出版 2017年7月

とあるうみべのまち。海の下には炭鉱があって、かつてはおじいちゃんが、今はとうさんが働いている。いずれはぼくもそこで働かろう…。海底の暗闇と、輝く海の対比が印象的。1950年代のカナダのケープ・ブレトン島がモデル。
【小学校中学年から】 (安田)

賞名	受賞作品 (*印は当館未所蔵)
コールドコット賞	『Wolf in the Snow』 (Matthew Cordell／作) 未邦訳
ニューベリー賞	『Hello, Universe』 (Erin Entrada Kelly／作) 未邦訳
ケイト・グリーンナウェイ賞	『Town Is by the Sea』 (Sydney Smith／作) ※邦訳『うみべのまちで』 (いわじょうよしひと／訳 BL出版)
カーネギー賞	『Where the World Ends』 (Geraldine McCaughrean／作) 未邦訳
小川未明文学賞大賞	『供養絵 心寄り添い人』 (ちばるりこ／著) *未刊行
けんぷち絵本の里大賞	『くろくんとちいさいしろくん』 (さく・え なかやみわ) 童心社
講談社出版文化賞絵本賞	『へろへろおじさん』 (佐々木マキ／作 福音館書店)
五山賞	『ぞうさんきかんしゃぽっぽぽっ』 (とよたかずひこ 脚本・絵 童心社) *
産経児童出版文化賞大賞	『よるのおと』 (たむら しげる／著 偕成社)
静岡書店大賞児童書新作部門	『おしっこちょっぴりもれたろう』 (ヨシタケシンスケ／さく PHP 研究所)
静岡書店大賞児童書名作部門	『ねずみくんのチョコキ』 (なかえよしを・上野紀子／作 ポプラ社)
小学館児童出版文化賞	『こんぴら狗』 (今井恭子／作 くもん出版) 『大名行列』 (シゲリカツヒコ／作 小学館)
坪田譲治文学賞	『ペンギンは空を見上げる』 (八重野統摩／著 東京創元社) *
ニッサン 童話と絵本のグランプリ	『ぶうぶうママ』 (小路智子／作 はらだゆうこ／絵 BL出版) 『こぐまのアーリーとあかいぼうし』 (わだあい／作 BL出版)
日本絵本賞大賞	『わくせいキャベジ動物図鑑』 (tupera tupera／作・絵 アリス館)
日本児童文学者協会賞	『こんぴら狗』 (今井恭子／作 いぬんこ／画 くもん出版)
日本児童文芸家協会賞	『オオカミのお札(1)～(3)』 (おおぎやなぎちか／作 くもん出版)
野間児童文芸賞	『満月の娘たち』 (安東みきえ／著 講談社)
ひろすけ童話賞	『ツトムとネコのひのようじん』 (にしかわおさむ／ぶん・え 小峰書店)
福島正実記念SF童話賞大賞	『おれからもうひとりのぼくへ』 (相川 郁恵／作 岩崎書店)
児童文芸ノンフィクション文学賞 (旧福田清人賞)	隔年開催。今年度は未実施。

知識



『ハチごはん
季節のごちそう』
横塚 眞己人／写真と文
ほるぷ出版
2018年9月

岐阜県の串原地区で毎年
秋に食べられている郷土料

理「ヘボの甘露煮」。ヘボとはこの地区の方言でクロスズメバチのこと。7月頃になると「ハチ追い」という方法で、土の中にあるヘボの巣を探し当て、持ち帰って大きく育てる。秋になると、家族総出で巣の中から幼虫を取り出して作業する。季節のごちそうを楽しむまちの人の姿が印象的。普段は昆虫食に縁がないという著者が、衰退しつつある地域の伝統文化を丁寧な取材と写真で追った。巻末には詳細な解説も。【小学校中学年から】(安田)

文学



『いいたいことが
あります!』
魚住 直子／著
偕成社
2018年10月

母親から女は勉強も家事
も両方できないといけない

と言われている小学6年生の陽菜子。でも兄は忙しいから家事はやらなくていいらしい。目標も見つからないのに進学塾は必要?お兄ちゃんが家事をしないのはなぜ?納得いかない気持ちを抱えた陽菜子は、謎の少女スージーの手帳に書かれたある言葉に衝撃を受ける。淡々とした文で思春期女子の気持ちに寄り添う。社会での女性の役割や母娘関係に切り込む一方、男性は定型的な描かれ方で男児がどのように読むか気になる。【小学校高学年から】(眞子)

文学



『ケイゾウさんの
春・夏・秋・冬』
市川 宣子／さく
講談社
2018年8月

ケイゾウさんは幼稚園で飼われている鶏。ウサギのみみこと暮らしている。口は悪いが面倒見が良いケイゾウさんは、ぶつくさと文句を言いつつも幼稚園の子どもたちやみみこに関わって、見事に振り回される。季節のトピック(このほり、プール、落ち葉、雪)は身近なもので、親近感をもって読める。

挿絵はカラーで物語の理解を助けている。読んであげるなら幼児から楽しめる。『ケイゾウさんは四月がきらいです。』(福音館書店 2006年)の続編。【小学校中学年から】(青山)

絵本



『どんどんばしわたれ
わらべうたえほん』
こばやし えみこ／案
ましま せつこ／絵
こぐま社
2018年10月

～どんどんばしわたれ さあわたれ こんこ
がでるぞ さあわたれ～

わらべ歌としてよく知られる「どんどんばしわたれ」が「くわらべうたえほん」シリーズで刊行。橋をわたるとキツネやたぬき、クマが登場し、最後にはみんな仲良く小川にどぼん!

暖かみのある絵が、わらべうたの世界に馴染んでいる。巻末には簡単な解説や楽譜の掲載も。同シリーズに『ととけっこう よがあげた』、『せんべ せんべ やけた』などがある。【幼児から】(安田)